

加藤文俊研究室による民宿の女将さんのポスター作りがいよいよ佳境を迎える。民宿を切り盛りする女将さんの魅力に光を当て、ポスターとして表現するこの活動は、二〇一一年九月の三宅島大学開校直後から開始した。島民の方も参加しての作成や島内各所や東京都での展示も行なつた。

これまでにたくさんのご協力を受け十四人の女将さんを取材してきた。二日目に訪ねた二軒をもつて女将さんのボスター作りはひとまず終了となる。

人生は楽しまなくちや

—ラッパ荘—

出迎えてくださった時の第一印象は明るく気さくそうな方。さっそく中へおじゃましてインタビュースタート。なぜラッパ荘の女将になつたのか、この仕事にどんな思いがあるかを語つていただいた。

ラッパ荘で生まれ育ち、高校卒業後東京にでたが、週末になるとお手伝いをしていた。そんな彼女にとつて、常

に泊り、毎日を充実させて人生を樂しく過ごしている彼女の姿が、少し羨ましくなつた。せっかくこの世に生きているのだからもっと人生を楽しもうじゃないか!

先日から風邪をひき鼻水が止まらないから、朝早くから起きつづいている。朝早前三時から起きつづいている。朝早くから仕事なのにネガティブな感情はなく、むしろ樂しそうなのである。

私はテキトーな性格なので、特に仕事に対する嫌な気持ちはない。むしろ、あれもやろうこれもやろうと思うと、楽しくなつてくる。人生は樂しまなきやね! 女将をするかたわらコーラス隊に所属したり、みずから畠仕事をしたりするなど積極的な活動スタイルをとる彼女の顔は、とても生き生きしていた。

「このラッパ荘は五年後にさらにパワーアップするのよ。それを考えるとますますファイト湧いてしまうでしょ?」道路の拡張工事で建物を取り壊す関係上、新しい宿舎を建てることになつていて。今だけでなく、未来に東京から船で七時間。たしかに、三宅島は一見なものもないかも知れないけ

ど東京から船で七時間。たしかに、三宅島は一見なものもないかも知れないけれど、毎日を充実させて人生を樂しく過ごしている彼女の姿が、少し羨ましくなつた。せっかくこの世に生きているのだからもっと人生を楽しもうじゃないか!



（山根賢）

女将さん。ボスター取材完了



2012年
(平成24年)
11月3日
土曜日

あしたばん編集部
発行所: 加藤文俊研究室
info@ashitaban.net
http://ashitaban.net/

第32号

島で生活するということ

—すずらん—

女将さんはお義母さんのときから營んでいる民宿を受け継ぐことを決め、今はお一人で切り盛りしている。

「宿では島のものを食べてもらいたい」。島で捕れる海鮮物をはじめ、自家で耕す畑から野菜を収穫し、民宿の料理に活かしている。三宅島の特産・

れど、毎日を充実させて人生を樂しく過ごしている彼女の姿が、少し羨ましくなつた。せっかくこの世に生きているのだからもっと人生を楽しもうじゃないか!

先日から風邪をひき鼻水が止まらないから、朝早くから起きつづっている。朝早くから仕事なのにネガティブな感情はなく、むしろ樂しそうなのである。

私はテキトーな性格なので、特に仕事に対する嫌な気持ちはない。むしろ、あれもやろうこれもやろうと思うと、楽しくなつてくる。人生は樂しまな

きやね! 女将をするかたわらコーラス隊に所属したり、みずから畠仕事をしたりするなど積極的な活動スタイルをとる彼女の顔は、とても生き生きしていた。

女将さんは民宿を引き継ぐ以前、島で福祉関係の仕事をしていた。忙しい時は朝九時から夜九時まで平日は働き通し、土日は民宿の手伝いをしていた。

「起きて仕事して、帰って寝ることの繰り返しだった。これでは身体がおかしくなっちゃうんじゃないかなと思ったよ」。端から見ると、島の時間は都会になつていて。今だけでなく、未来に

対してもボジティブだった。

東京から船で七時間。たしかに、三宅島は一見なものもないかも知れないけれど、毎日を充実させて人生を樂しく過ごしている彼女の姿が、少し羨ましくなつた。せっかくこの世に生きているのだからもっと人生を楽しもうじゃないか!

（龍山千里）

告知

三宅島大学 日曜日の講座のお知らせ

四日(日)の十時から十二時まで三宅島大学本校舎にて、「ワーケーション」についてなんだろう? の講座が開催される。講師は加藤文俊慶應義塾大学教授と長岡健法政大学教授の二名である。事前申し込み・受講料は不要で、開始十分前までに校舎に行けば参加できる。

そもそも「ワーケーション」とはなにか。両教授の対談や参加者とのやり取りから掘り下げていく。日曜日の校舎で肩の力を抜き、「ワーケーション」そのものや生み出すものについて学び合う場になれば幸いだ。

どなたさまもお気軽にご参加ください。

